ふくしきらり人。

鈴木（すずき） 純子（じゅんこ）さん

社会福祉法人すはま会・元気塾
介護福祉士実務者研修・介護職員初任者研修・元気アップ教室担当

社会福祉法人すはま会は、鹿嶋市において軽費老人ホームの運営等のほか、「元気塾」として介護予防教室の開催、介護福祉士実務者研修や介護職員初任者研修の実施機関として事業を展開しています。

鈴木純子さんは、「元気塾」の担当として、地域の高齢者と共に楽しく健康づくりに取り組むと同時に、介護福祉士実務者研修の講師など、これからの福祉を担う方に福祉を伝える立場として日々活躍されています。

また、鹿嶋市だけにとどまらず、日本で介護職員として就労することを希望する外国人の支援にも取り組まれています。

最近では、ミャンマーを訪問して介護研修を行い、日本での就労の懸け橋となっています。

人との関わりが一番楽しい

鹿嶋市だけはなく、茨城県内、そしてミャンマーと幅広く業務に取り組まれている鈴木さんが福祉の道を進むきっかけは、幼いころの祖母との交流、そして地域の人との交流にあったのではないかと振り返ります。

これらの原体験が「人と深く接することのできること」を仕事にしたいと強く思うようになり、福祉の道に飛び込みました。

これまでに数度の転職がありましたが、「自分のやりたいことはやっぱり人と深く接することができる仕事」と、その想いは変わることなく、福祉の仕事に長年従事しています。

「相手を知り、尊重することで紡ぐ福祉のこころ」

地域に開かれた組織へ

福祉の業界で経験を積んできたなかで、福祉の仕事の大切さや重要性を日々感じている一方、特に介護職の世間の一般的なイメージに対しては、「もっと地域の人々に福祉を理解してもらえるよう、オープンに仕事を進めていくことが必要だ」と、鈴木さんは言います。現在の職場においても、法人全体として地域とのつながりを意識して業務を展開しており、それが働きやすさの向上や福祉の現場で働きたいと考える方が増えることにつながるのではないか、とも考えています。

「その時」を大切にしたい

福祉の仕事の魅力について、「福祉の仕事、特に介護の仕事は、常に人とつながり、その人の人生に関わることで、互いに生きている実感を持てること」とし、そのことに誇りとやりがいを感じているそうです。

鈴木さん自身の体験を交えて、「人とつながるためには、相手を敬い、寄り添うことが大切であるけれど、初めから上手くできていたわけではないです。経験を通じて、自分の感情をコントロールし、相手に対する認識や捉え方を変えることができるようなった。」といいます。だからこそ、一瞬一瞬を大切にして人と向き合うことができるようになってから、さらに福祉の仕事の魅力を感じられるようになったようです。

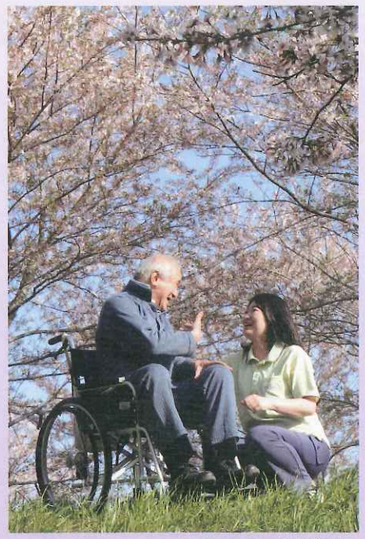
福祉を教えるのではなく、伝える

研修の講師を務めることの多い鈴木さんは、「教えるのではなく、伝えるというスタンス」で取り組んでいます。学ぶことは楽しいと感じてもらえるよう、堅苦しくならないようにと考えているそうです。

また、仕事以外でも、地域活動に積極的に参加しています。「協力依頼になるべく断らない」と言い、日々忙しく活動しています。家族から見ても仕事を楽しそうにやっていると映っているようで、家族の理解も鈴木さんの活動を後押ししています。

すはま会に入職して17年目。

地域のため、そして福祉の仕事を目指す若い世代のために、福祉を伝えようとする姿が印象的でした。



photographer：加藤新二